

平時と発生時の 感染症対策の備えに必要なこと

公益財団法人操風会 岡山旭東病院
感染管理部門 感染管理認定看護師
菅田 節子



本日のおはなし

- 高齢の方は感染すると重い症状になりやすい
- 施設では生活を共にしているため、感染が拡がりやすい



コロナ禍で学んだ感染対策を
日々の介護でも実践しましょう

備前保健所東備支所HP

<https://www.pref.okayama.jp/page/931281.html>

「施設における感染対策」

「施設における感染対策～実践編～」

「施設における感染症対策事例（Q&A）集」

「感染防止チェックリスト」 をご覧ください。



新型コロナウイルス感染症のパンデミックで行ったこと



日常マスク着用



手指衛生



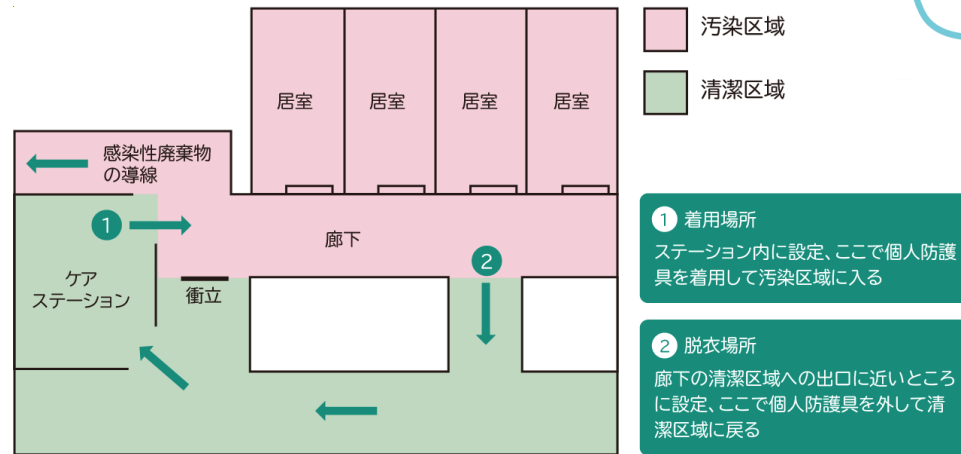
環境清掃（消毒）



換気



個人防護具着用



ゾーニング（患者配置）

コロナ禍で学んだ（再確認した）こと

- 感染症を正しく理解する
- 感染が起こる経路を正しく理解する
- 自分自身を感染から守る
- 周囲の人に感染させない
- 感染は日常管理により予防できる



新型コロナウイルス感染症に対して

マスク着用

咳エチケット
ユニバーサルマスク
ゴーグル着用

手指衛生

石けん手洗い
手指消毒



病原体から自分自身を守る
感染を拡げない
周囲の人に感染させない

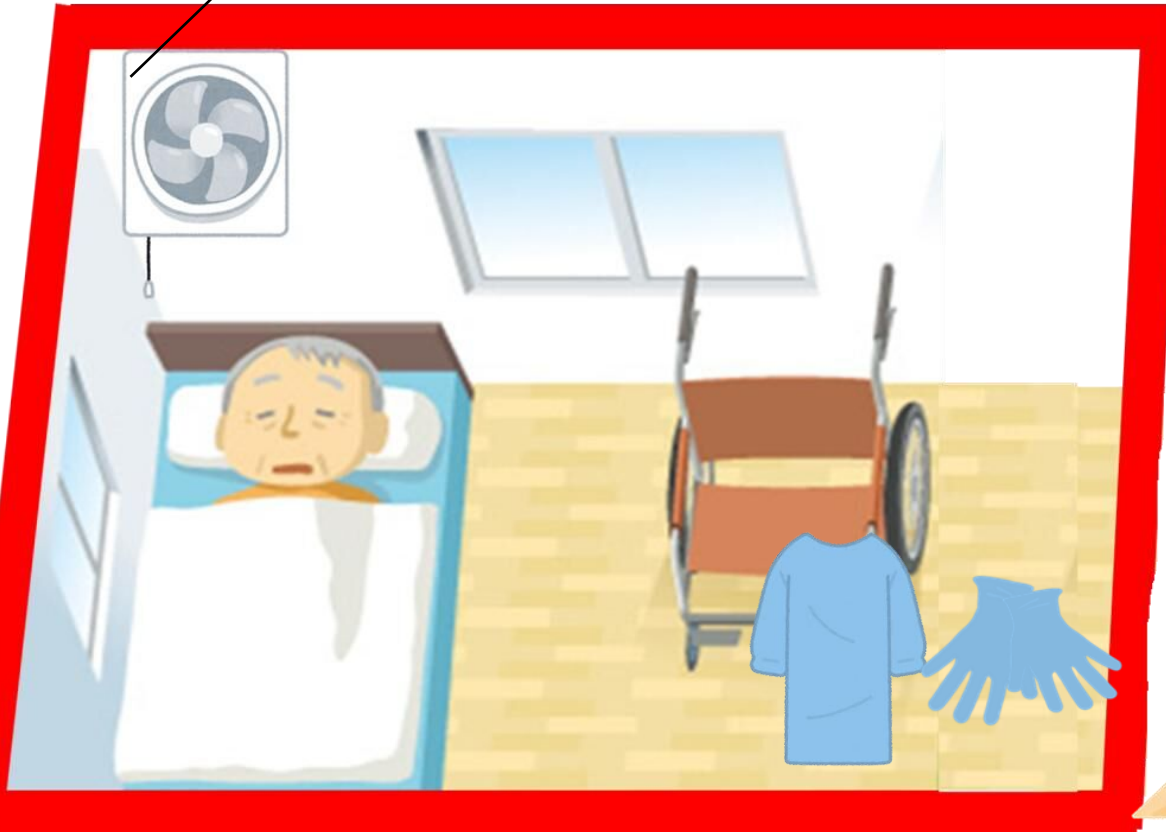


* 周囲の人



新型コロナウイルス感染症に対して 個室管理（ゾーニング） 感染を拡げないため

換気：病原体の排除



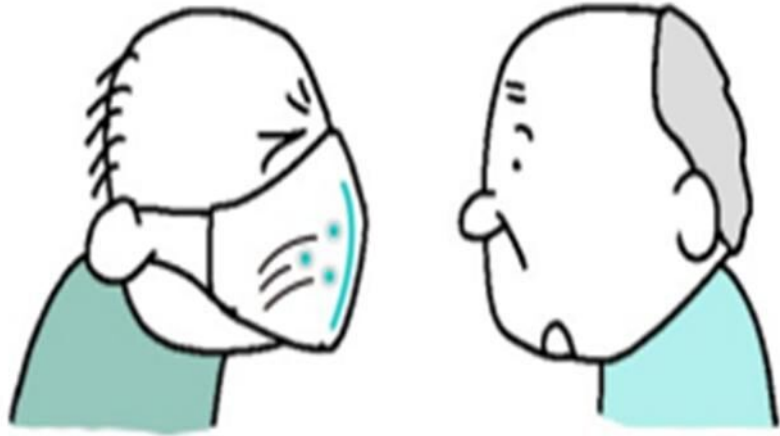
防護具の着用
病原体から自分自身を守る
病原体によるユニホークの
汚染を防ぐ



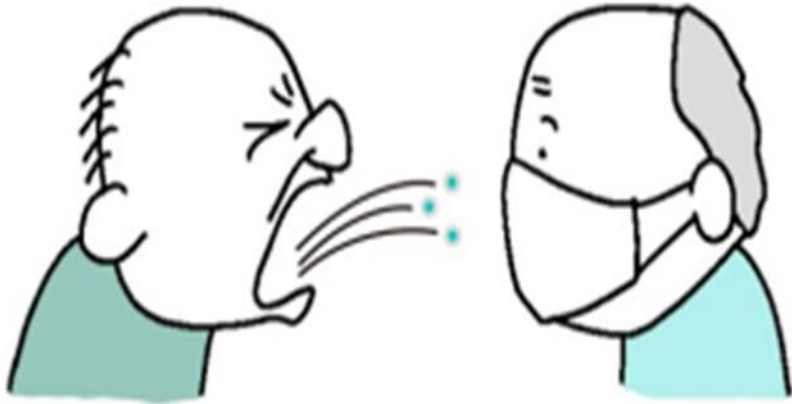
**ケアごと・利用者さんご
と使用した防護具を脱ぐ**
病原体を持ち出さない



利用者さんも感染対策に参加



咳エチケット
病原体を吐き出さない



マスクの着用
病原体を吸い込まない



手指衛生
利用者さん自身も病原体から身を守る



公共場所の清掃

頻回に人が触れる場所は 1 日 1 回以上清拭消毒！

(通常過度に必要なし)



廊下（低頻度接触面）の清掃



手すり（高頻度接触面）
の清掃



テーブル（高頻度接触面）の清掃

新型コロナウイルス感染症対策で行ってきたことは

① 手指衛生

② マスクの着用

③ 個人防護具着用

④ ゾーニング（患者配置）

⑤ 換気

⑥ 環境消毒

標準予防策

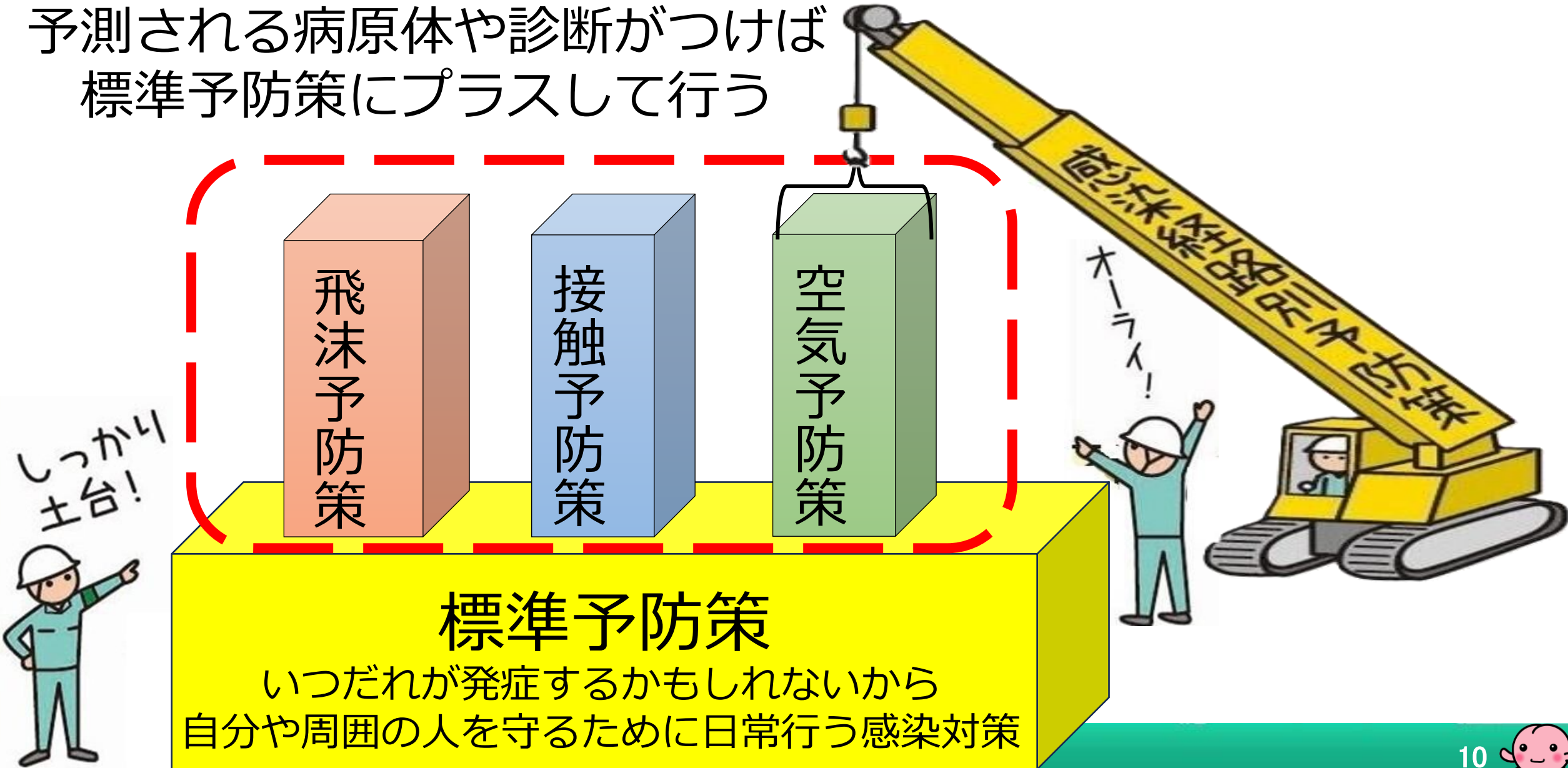
飛沫予防策

接触予防策



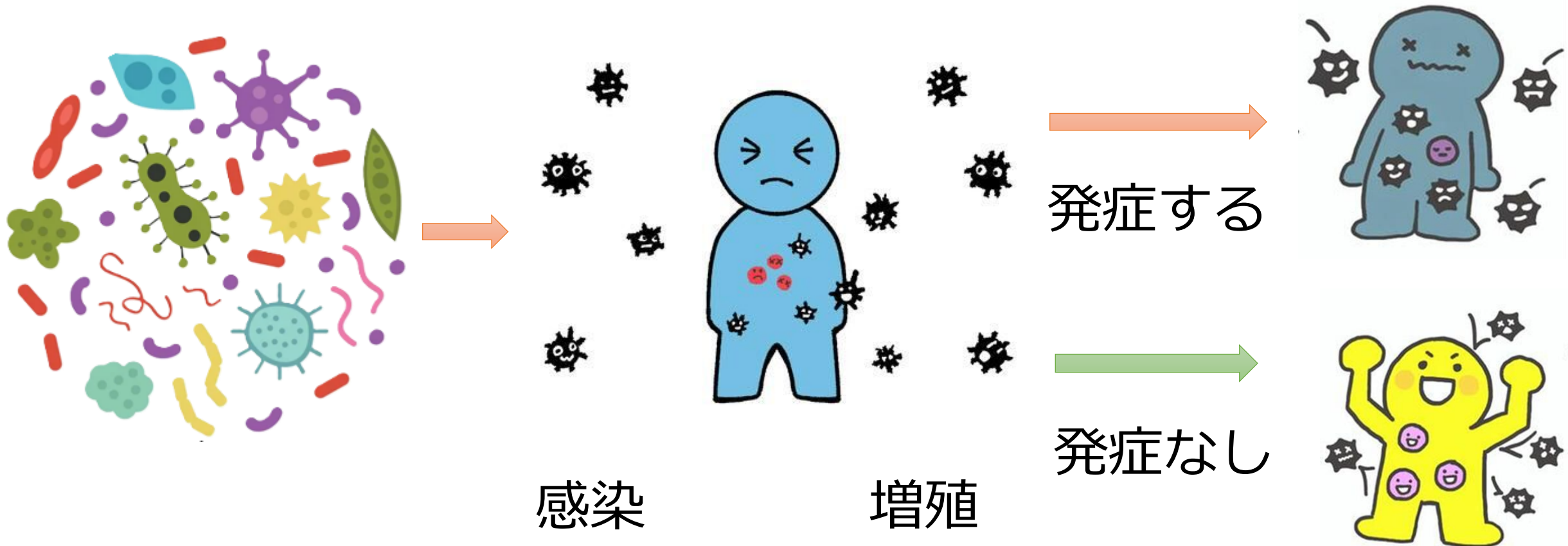
つまり、特別な対策ではなく、日常でも必要な対策

予測される病原体や診断がつけば
標準予防策にプラスして行う



そもそも感染とは

- 感染とは、外から体内に病原体が入って病気を起こすこと
- その感染によって様々な症状が生じた状態を感染症



高齢者の特徴と高齢者介護施設

高齢者の特徴

- ・ 抵抗力が弱い
- ・ 感染すると症状が重くなりやすい
- ・ 症状がはっきりせず、診断が遅れやすい
- ・ 認知機能が低下している場合は、手洗いやマスクの着用など感染対策への協力が得られにくい



高齢者施設



集団で生活しているため、感染拡大のリスクが高い

食堂やホールでの食事
集団レクリエーション
共同のトイレ
洗面所
多床室など



病原体を持ち込まない

- ・高齢者介護施設における感染症のほとんどは、施設の外から病原体が持ち込まれて発生する

持ち込む来訪者とは



面会者

新しい利用者さん
併設のショートステイや
デイサービス利用者さん
など



職員



委託業者



見学者



実習生



ボランティア

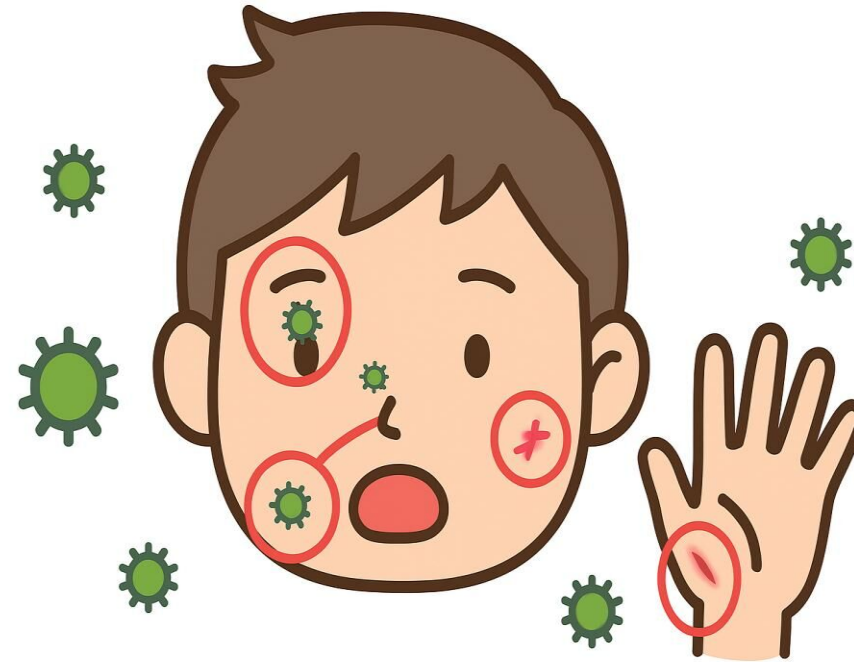
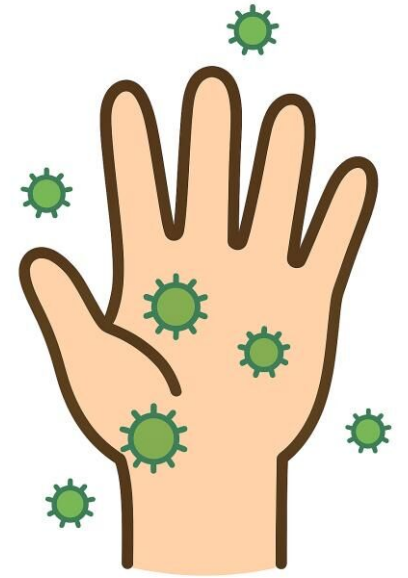


病原体が人の体の中に侵入する経路は？

感染者の
体内から出てきた
病原体を含んだ物質



病原体が付着した
自分の手指

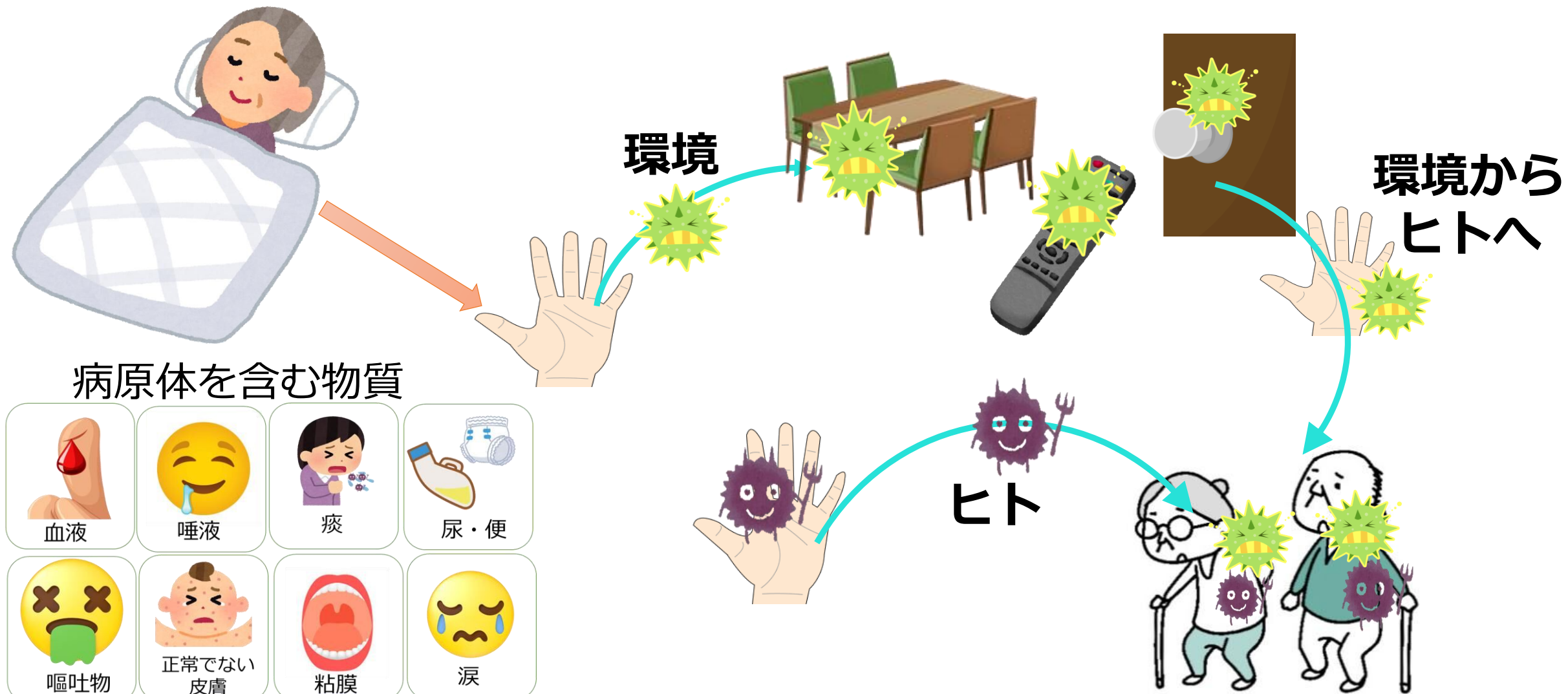


主には：目・鼻・口
その他：排泄口・傷口から
侵入する



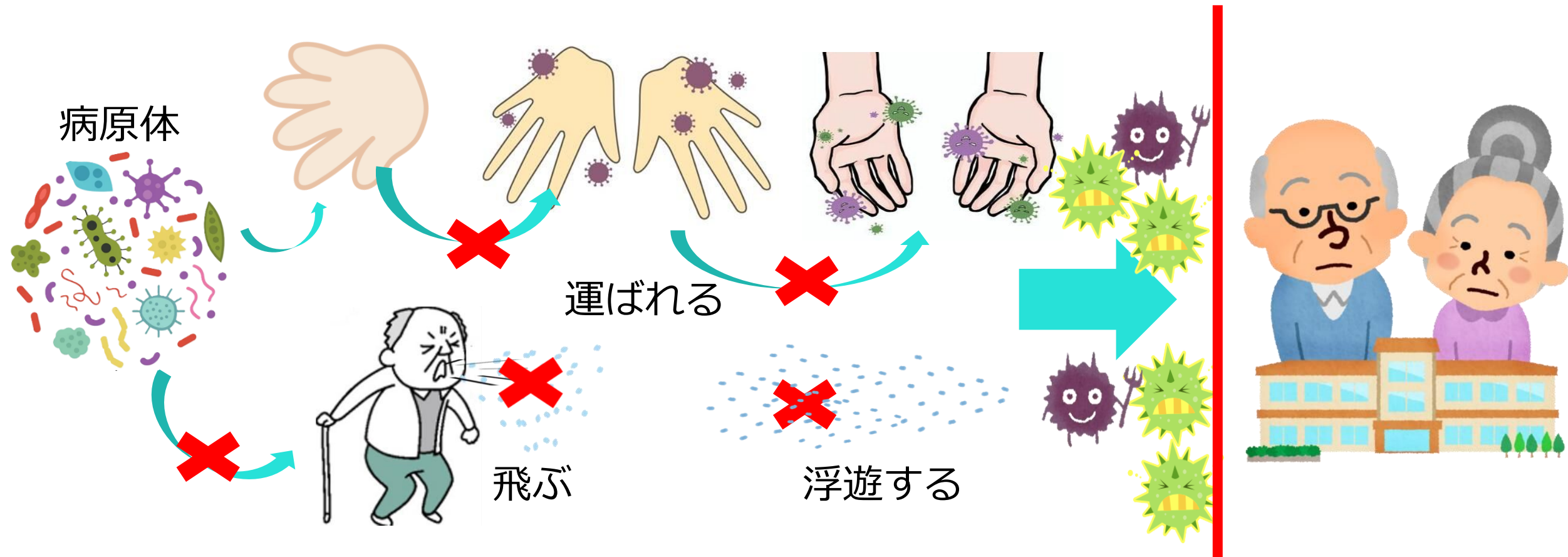
施設内での感染リスクの一例

環境や物についた病原体はこのような移動する



拡げない・持ち出さないために

病原体を含んだ病原体が移動する経路を遮断し、
病原体の体内への侵入を防ぐ



石けん手洗いと手指消毒を効果的に行う

1. 利用者さんに触れる直前



手指についている病原体を利用者さんにプレゼントしない



利用者さんが持っている病原体を周囲に持ち出さない

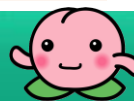
2. 清潔な物に触れる直前

3. 血液・体液に触れた恐れがあるとき

4. 利用者さんに触れた直後



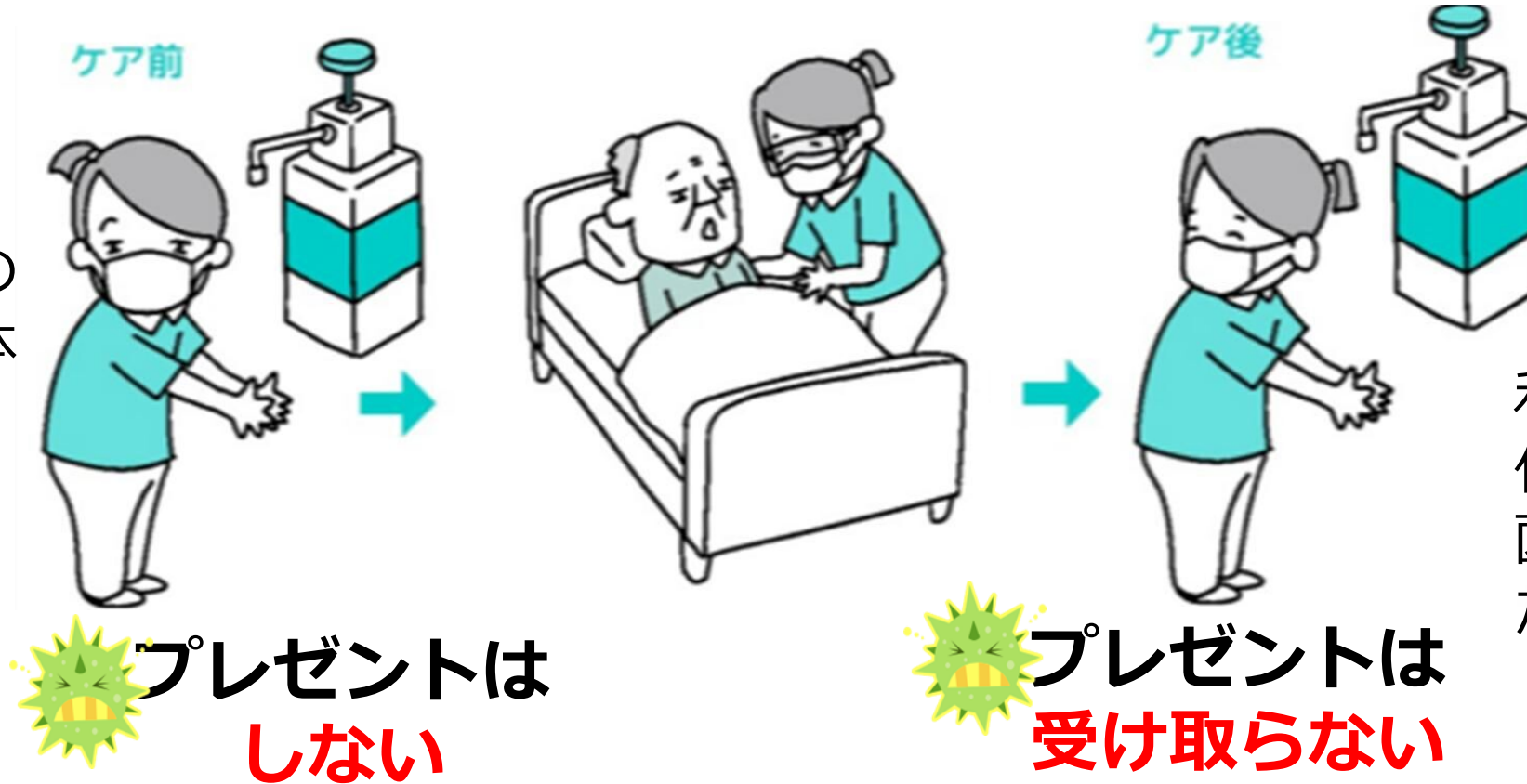
5. 利用者さんの周辺の物に触れた直後



適切なタイミングとは

- 適切なタイミングは、ケア直前に1回、直後に1回

利用者さんの
もとに病原体
を運ばない



利用者さんに
付着している
菌を他に運び
ださない

このタイミングを守らないと感染経路をたつことはできない

必要なタイミングで手指衛生ができる環境づくり

利用者の居室前や食卓など
職員のケアの動線上に常設する

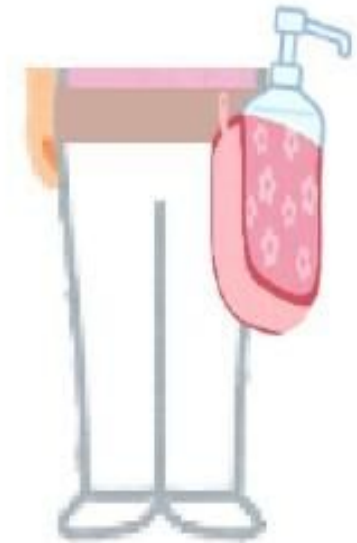


ケアの道具と
一緒に持ち運ぶ

利用者が誤飲する可能性があり
常設できない場合等は
職員個人で携帯する



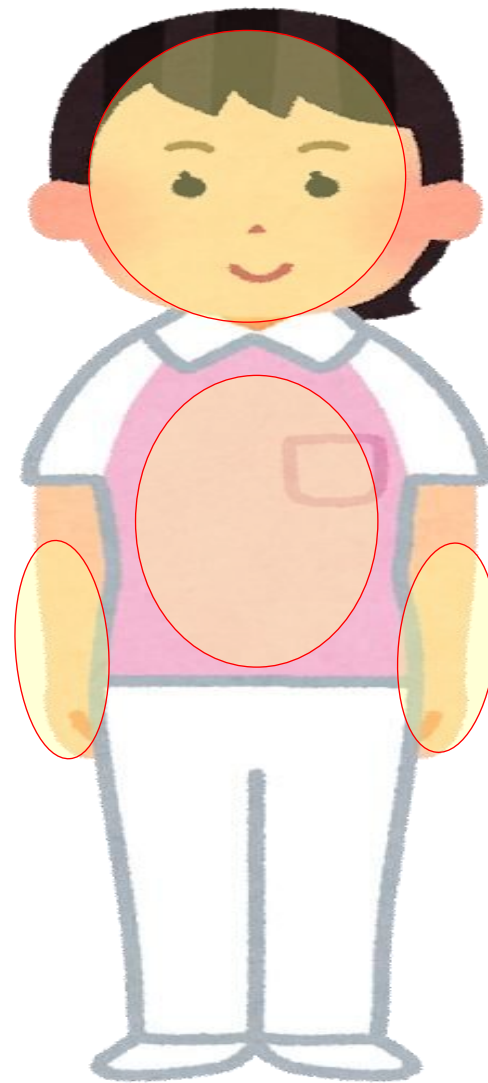
ベルトやポケットに
フックやリールで
取りつける



ポシェットに
入れる
※ポシェットは定期的
に洗濯しましょう



日常ケアには感染リスクが存在する



利用者さんが
感染症発症



自身はもちろん
職場内や家庭内で
感染が広がる

自身が感染しない（周囲に感染を広げな）ために



血液



唾液



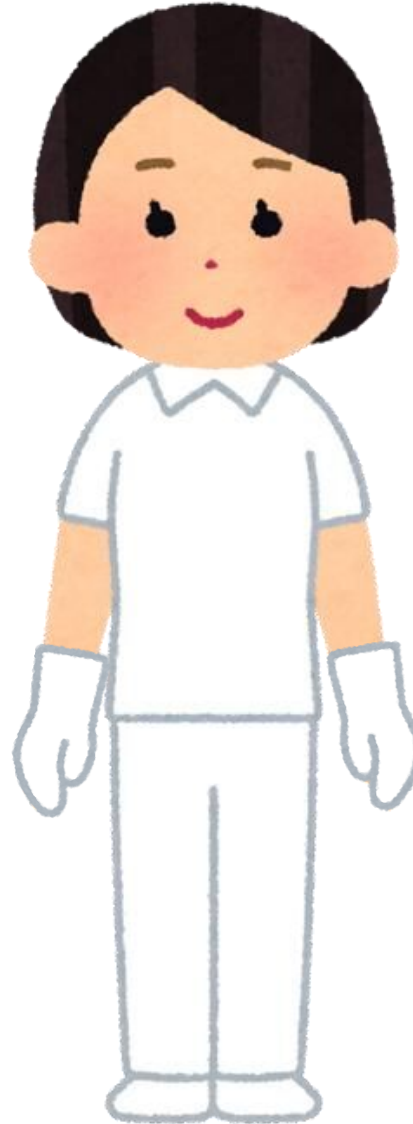
粘膜



尿・便



痰



マスク漏れチェック（MMC）

マスクをつけたら毎回マスク漏れチェック!!

鏡を見ながらフィットしているか自己チェック、お互いにチェックしましょう!

～手順～

マスクの表面を手で覆い以下を確認

①ゆっくり息を吐き、マスクと顔の間から
空気が漏れていないか

②ゆっくり息を吸い、マスクが顔に向
かって吸い付く感覚があるか



鼻のフィットOK?

横から漏れていない?

顎まで覆えている?

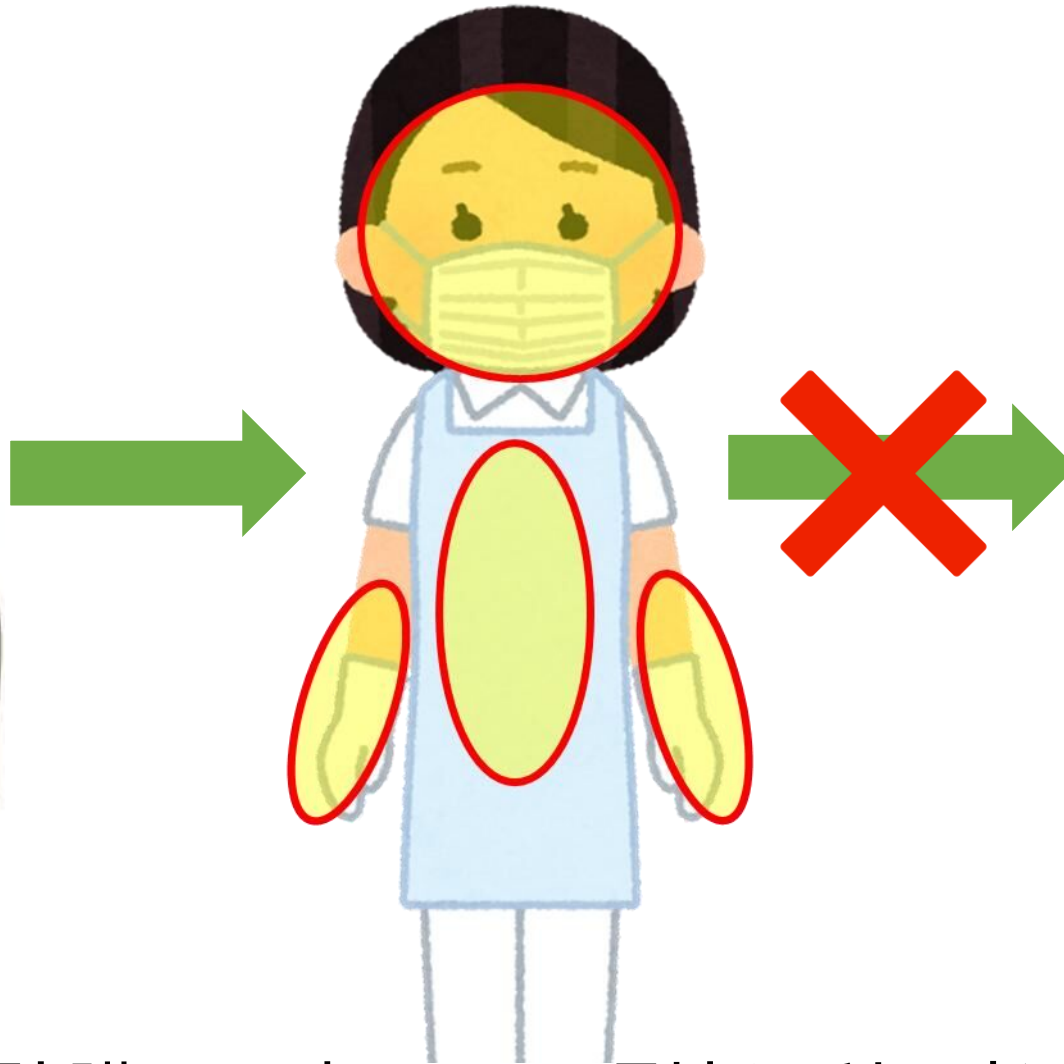
自身を守ることが、周囲を守ることにつながります✧

岡山市保健所 <https://www.city.okayama.jp/kurashi/cmsfiles/contents/0000052/52349/MMC.pdf>

一度使用した個人防護具は



桃太郎さん



桃子さん

着用後の個人防護具の表面は、環境や利用者に接触することで
目には見えない病原体がついている

だからといって...



手袋の重ね使用

- ①未使用でもディスポ手袋にはピンホールなどの不良があり、そこから細菌が内側の手袋に通ることがある
- ②外側の手袋を外す際に1枚目の手袋の汚染が内側の手袋に付着する

手袋の上から消毒

- ①手袋の上からの手指消毒はシワの部分に汚染部が残りやすい
- ②手袋の上からの手指消毒の効果が証明されていない
- ③手袋劣化のリスクがある



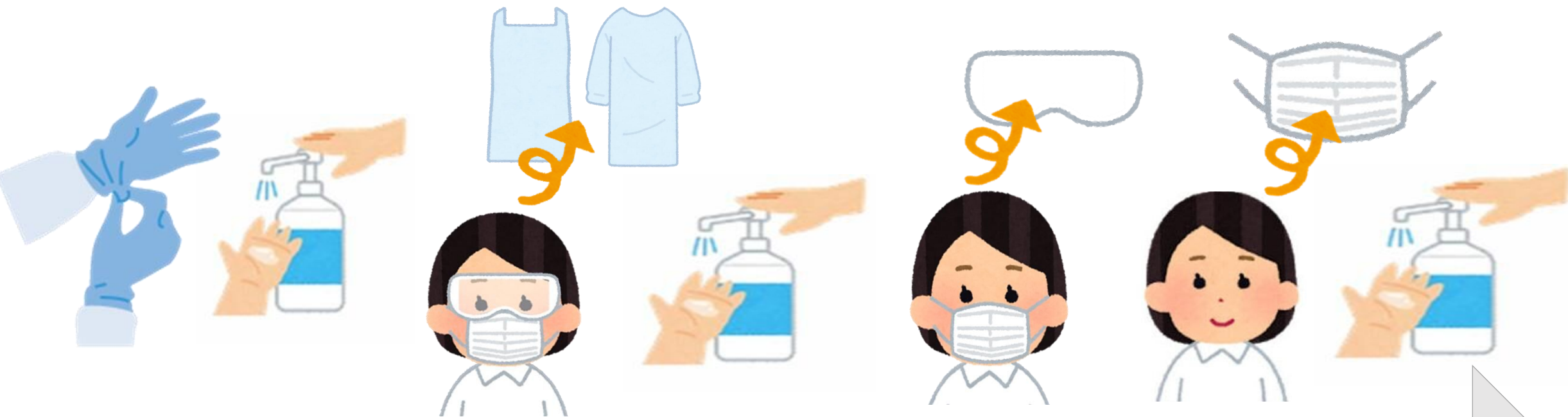
ケアや処置が終了したら、速やかに外す

- 手袋や防護具をつけたまま他の作業をしない
- 脱衣せずに別の利用者さんさんのケアをしない
- 利用者さんごとに交換する、使い回しはしない
- 個人防護具表面に触れないように脱ぐ
- もしも表面に触れたかと思ったら、慌てずその都度手指消毒を行う



個人防護具を外す順番

個人防護具は、着るときよりも外す時が一番重要



1.手袋

2.手指衛生

3.エプロン
ガウン

4.手指衛生

5.アイガード

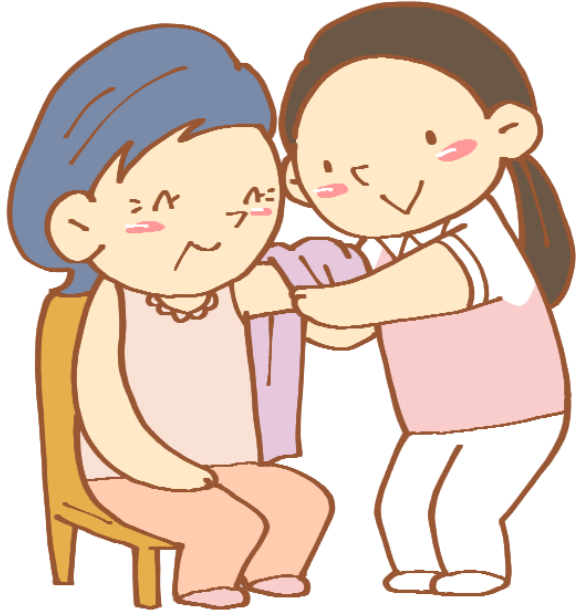
6.マスク

7.手指衛生

脱衣場所はあらかじめ決めておき、手指消毒剤やごみ箱も使いやすいように準備



感染しているのかもと疑う利用者さんに気づく



- ✓ いつもように元気がない
- ✓ 体が熱い
- ✓ 食欲がない
- ✓ いつものように動けていない
- ✓ トイレまでの歩きがおかし
- ✓ 部屋から咳声が出た
- ✓ 声がおかし など



咳・熱・
嘔吐・下痢など
感染症が疑われる



「感染症にかかっている」かもと思ったら

疑われる感染症の症状は何？



病原体を含んでいる物質は何？



自身が感染しないよう防御するにはどうする？



施設内に感染を拡げないためにはどうする？

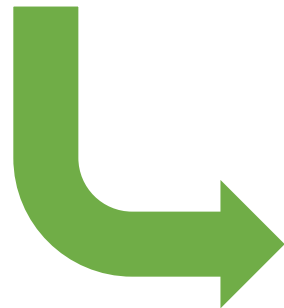


感染が疑われる高齢者



感染を拡げないために何をすべきか？

- ・ 日常行っている感染予防策を確実に実施
- ・ 疑われる利用者さんから他の利用者さんに、感染が拡がる恐れがある場合は隔離
- ・ 病原体は手指について移動し拡がるので手指衛生は普段以上に実施
- ・ 着用する个人防护具の種類や着衣・脱衣のルールを明確にする



感染が拡がる前に
感染症の種類に応じて
施設のルールを決めておく



インフルエンザ

飛沫感染

発生源の近くで
目・鼻・口の粘膜に直接付着



鼻・口から出る
水分が多く、大きく、
重い微粒子（飛沫）

環境汚染

1.5m以内



接触感染



呼吸器症状のある利用者さんの対応

【感染経路】 咳やくしゃみ等による**飛沫感染**

飛沫に汚染された環境表面や器具等に手で触れておこる**接触感染**

【主な症状】 咳、痰、咽頭痛、発熱、息切れ等

【代表的な疾患】 インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等



【対応】

- 咳やくしゃみ等の飛沫による感染を防ぐために個人防護具（マスクとフェイスシールドやゴーグル）を着用（飛沫対策）
- 密着した介護で、職員の衣類等が飛沫や唾液等で汚染される可能性がある場合は、状況に応じてエプロンやガウン等を着用（接触対策）
- 症状がある人や診断された人が、いつ、どの部屋を利用しているか、どんな人たちに広がっているかを把握、なんとなく体調が悪い人も分けて対応することで感染拡大を防止する

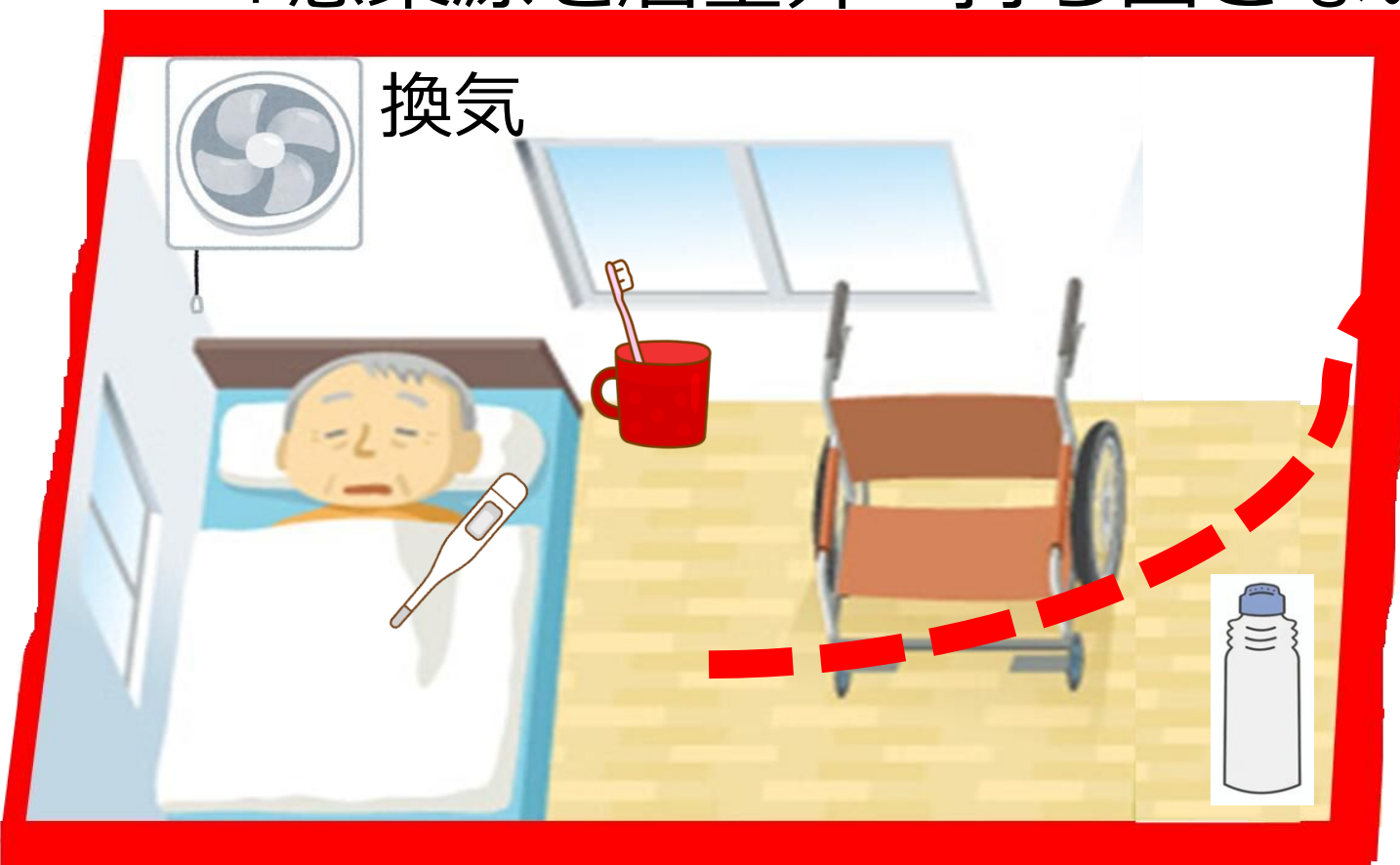


感染者の居室内でケアする時

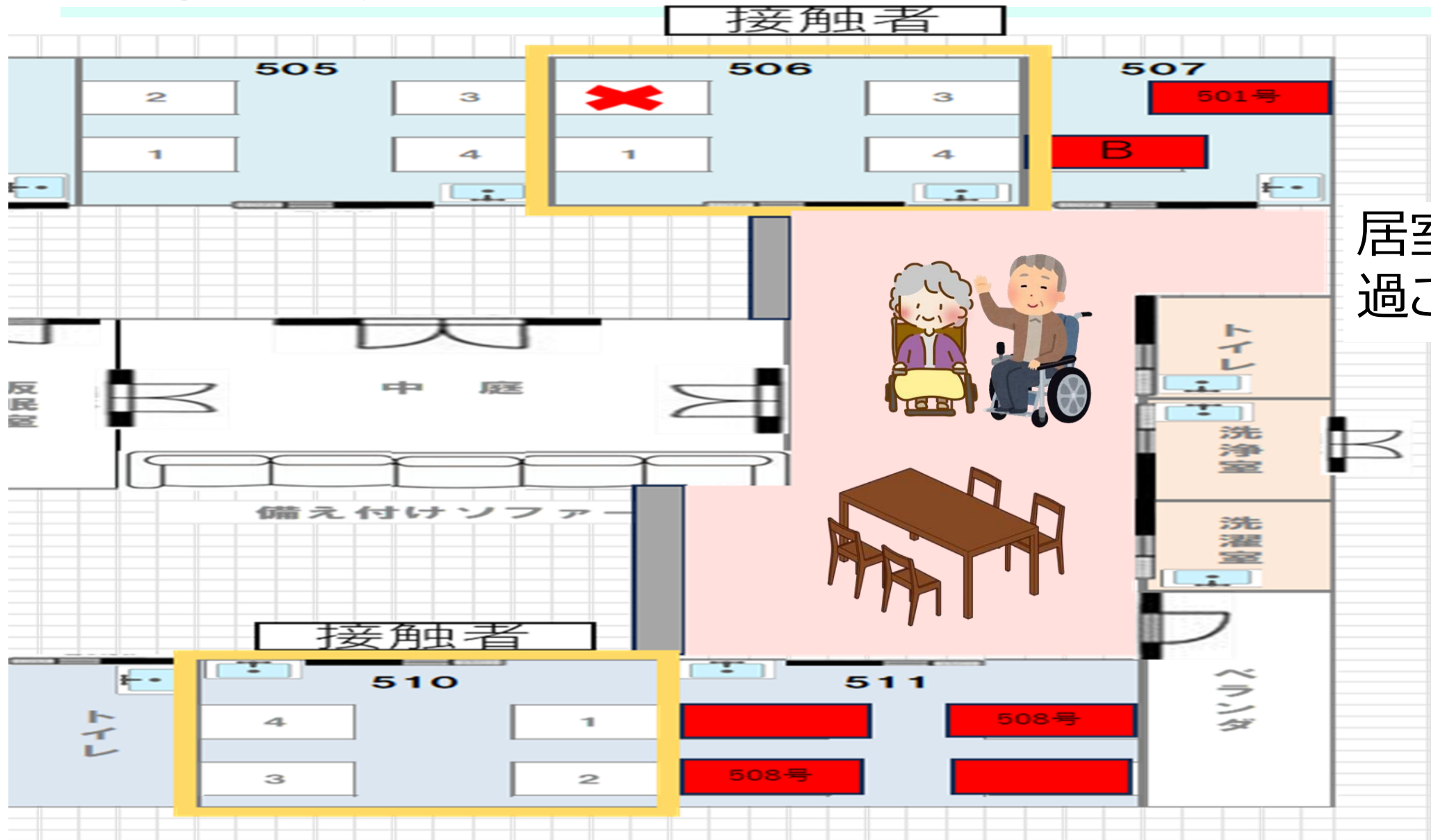
【留意する点】

- ・「自身が感染しない」
- ・「感染源を居室外へ持ち出さない」

居室の外に感染源
を持ち出さない・
拡げない



感染者が多数発生しクラスターになった場合



居室から出て
過ごせる工夫



ゾーニング設定後に確認すること

- 清潔区域と汚染区域を明確に区別し運用されているか
- 手指衛生やPPEの着脱など、基本的な感染対策の手技が確実に行われているか
- 日々運用状況の確認を行う



おう吐・下痢症状の利用者さんへの対応

【感染経路】 主に汚染された食品からの**経口感染**、**接触感染**
おう吐物からの**飛沫感染**

【主な症状】 吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛等

【代表的な疾患】 ノロウイルス・ロタウイルス等



【対応】

- 排泄物や嘔吐物を処理する際は、マスクに加えて手袋やガウンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗う
 - 症状のある利用者さんが使用したものは適切に消毒する
 - 周囲にいた人や嘔吐処理をした人は**最低でも48時間**は体調に注意
 - 高齢者では下痢等により脱水症状を起こすことがある
- また、誤嚥により肺炎を起こすことがあるため、体調の変化に注意

ノロウイルス感染者の嘔吐物処理と対応のポイント



およそ半径 2～3 mの
範囲を汚染区域とする

- ①作業者自身が感染しない
- ②速やかに正しく処理を行う
 - ・ すぐに拭き取る
 - ・ 乾燥させない（ウイルスを浮遊させない）
 - ・ 適切に消毒する
- ③汚染した環境や患者の接触で感染が起こる
感染が起こっている間は、環境消毒をする
- ④感染者は個室管理あるいはコホーティング
- ⑤感染者の居室入室時は手袋とガウンを着用
（必要に応じて、マスクやゴーグルを使用）

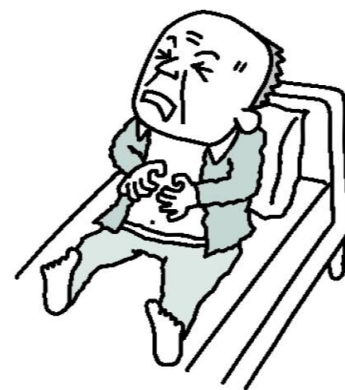
皮膚に発疹のある利用者さんへの対応

【感染経路】 皮膚と皮膚の直接接触感染

衣服やリネンからの間접接触感染

【主な症状】 かゆみ、皮膚の落屑等

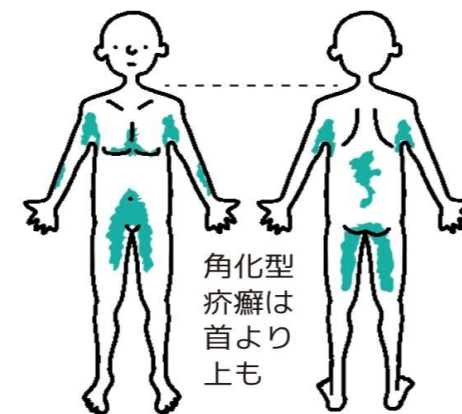
【代表的な疾患】 通常（痂痂型）の疥癬 ノルウエー疥癬



激しい痒み



皮疹の好発部位



角化型
疥癬は
首より
上も

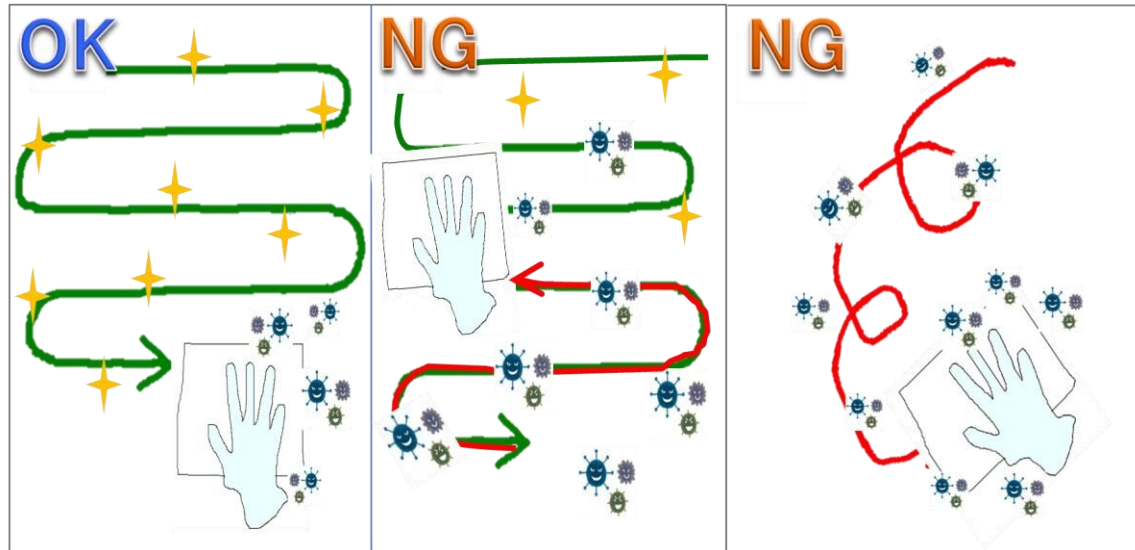
丘疹の好発部位

【対応】

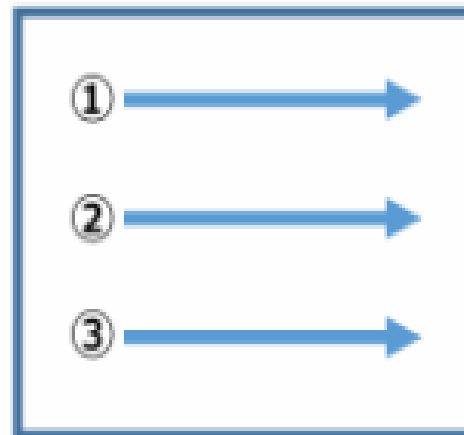
- ・介護にあたる際は、マスクに加えて手袋や袖付きガウンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗う
- ・衣類やリネンは毎日交換し、50℃10分熱処理後に洗濯・乾燥
- ・居室の清掃は、湿式清掃（ほこりを舞い上げないようにする）

清掃時の注意点

- 日常の清掃においては消毒剤は使用しない
- 血液や体液などによる汚染には汚れの除去の後、次亜塩素酸ナトリウムで清拭する
 - 病原体の存在が不明な場合が多いので、次亜塩素酸ナトリウムで菌やウイルスを不活化する
- ふき取りは一方向で行う
 - 一度拭いたところには戻らない



一方向へ拭き取る



スプレーによる噴霧ではムラがあり確実性に劣る
必ず布・ペーパーなどに含ませてから使用する

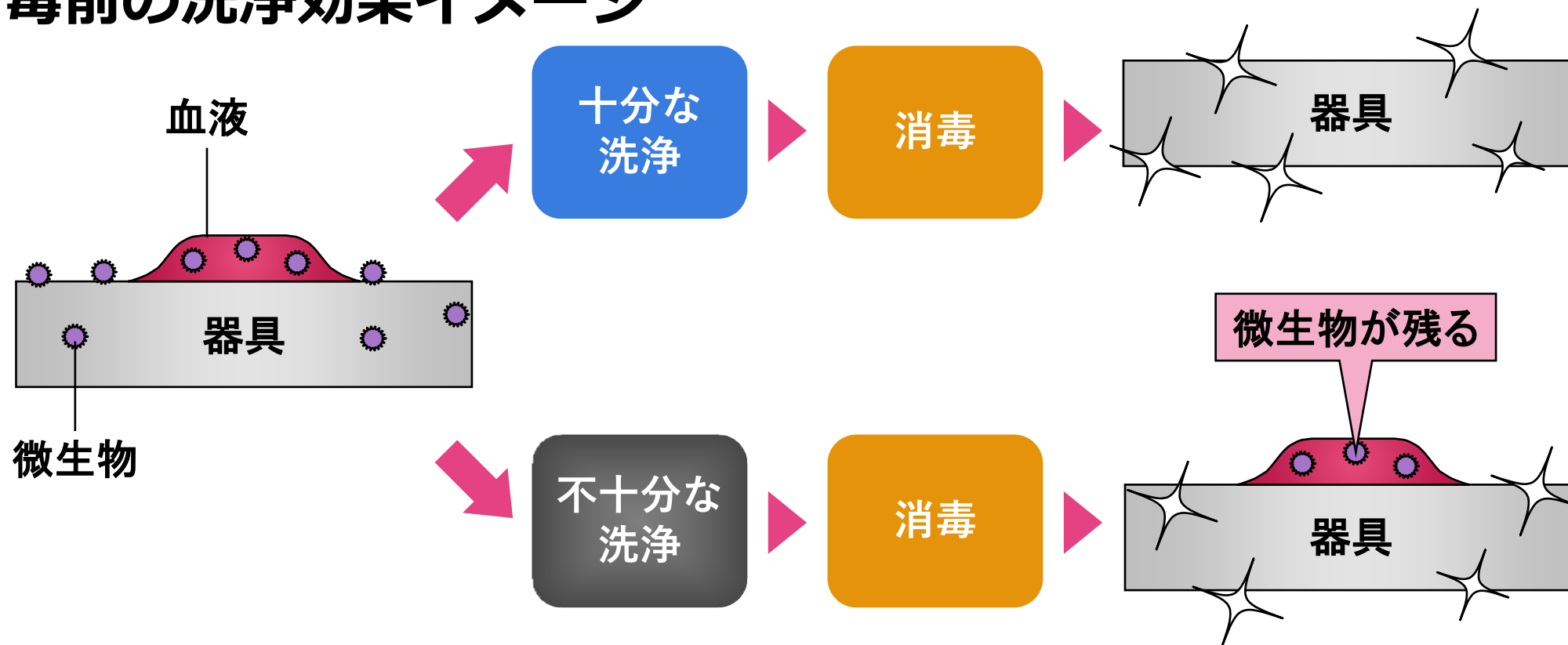


器具の洗浄と消毒

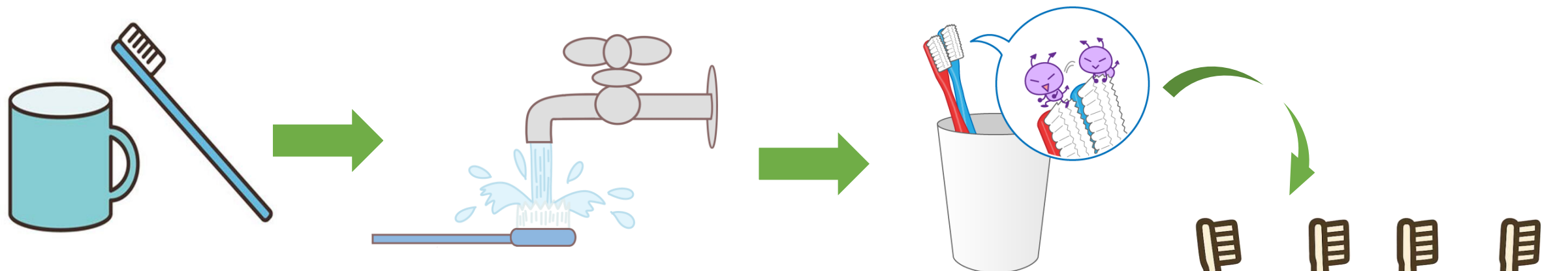
- 洗浄で器具から汚染物を物理的に除去した後、消毒を行う



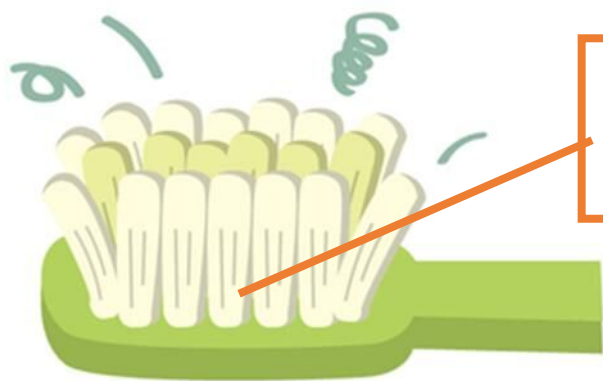
消毒前の洗浄効果イメージ



利用者さんさんに使用した器具管理例



流水でしっかりと洗い、毛先を乾燥させる
他の人の歯ブラシと接触しないよう補完する

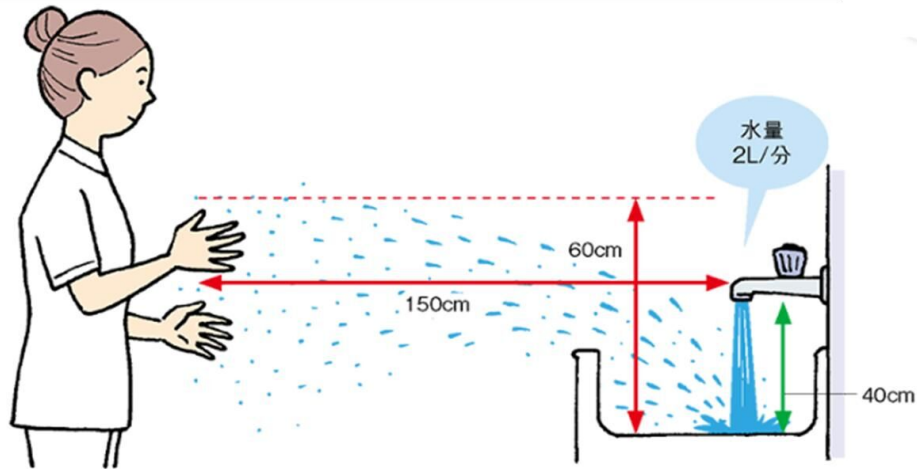


根本は洗浄しずらく、
消毒も十分できない

他人の使用した歯ブラシとの接触は感染のリスク
そもそも消毒は十分できない
上に向け立てて乾燥させることが重要



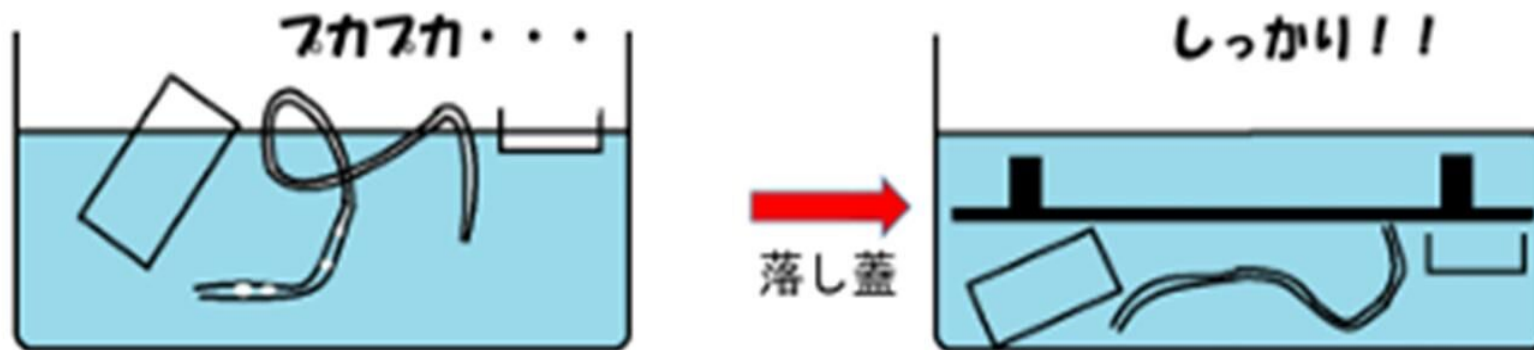
洗浄・消毒 こんな状況はありませんか？



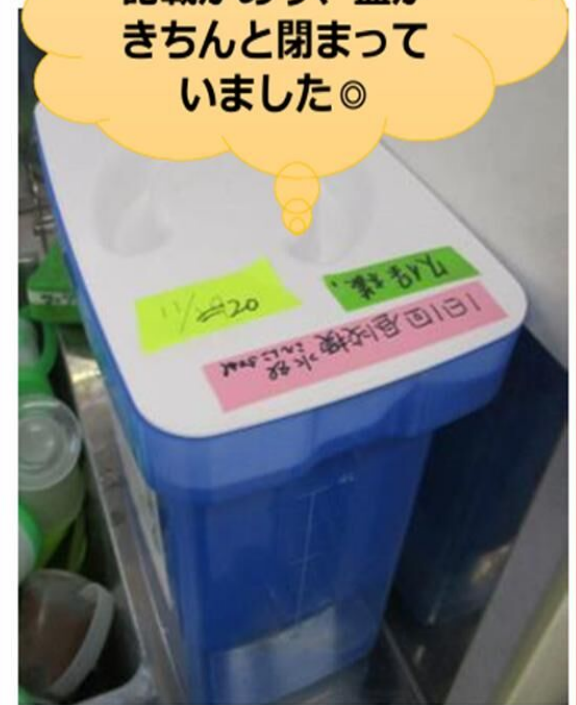
深さ40cmの流し台に、1分間に2Lの流水を流すと、高さ60cm、幅150cmにまで水はねが起こる



手袋
撥水性のエプロン
マスク・ゴーグル着用



消毒液作成方法の
記載があり、蓋が
きちんと閉まって
いました◎



施設で感染を防ぐ「3つの基本ルール」

① 持ち込まない（込まれない）

病原体を施設に入れないことが第一歩！

- 職員利用者さん・出入りする人の体調をしっかりとチェック
- 発熱や風邪症状があるときは、無理せず休む

② 拡げない③持ち出さない

病原体が入ってしまったても、拡げないことが大切！

清潔と不潔をしっかりと分けて考える

- 手洗いやアルコール消毒をこまめに
- マスクや手袋などの個人防護具を正しく使う
- 使った物はすぐに洗う・消毒・乾燥・保管する
- よく触る場所（ドアノブ、手すりなど）はこまめに掃除
- 退勤時の手洗いや着替えも忘れずに



「利用者さんの生活の場・みなさんの職場を安全に」



感染対策を行う目的



みなさんの行動が

利用者さんを守る

職員
(同僚・仲間)を守る

自分
(大切な人・家族)も守る

